

令和2年度 事業計画

社会福祉法人聖マリアの家

基本方針

- ☆ 子ども一人ひとりをかけがえのない存在として尊び、神さまから与えられた可能性が最大限に開花していくように保育を行う。
- ☆ 園児の考えや行動を柔軟に受け止め、共感し、ともに向上できるように努める。
- ☆ 保護者の国籍、信条、社会的地位によって差別することなく、家庭のよき相談相手となるとともにプライバシーを守り、良き協力者となる。
- ☆ 地域の人々や関係機関とともに子育てを支援し、地域で子どもを育てるより良い環境づくりに努める。

I 本 部

1. 理事会の開催

開催予定 6月、9月、12月、3月

- 議 題 平成31年度事業報告及び決算の承認
令和2年度事業計画及び収支予算の承認
その他必要な事項

報告事項 理事長 及び業務執行理事の職務の施行状況、保育事業、その他

2. 評議員会の開催

開催予定 定時評議員会 6月

- 議 題 理事及び監事の選任又は解任
計算書類及び財産目録の承認、
その他必要な事項

3. 本年度の重点目標

- ① 地域福祉サービスの提供についての検討
- ② 中長期計画の検討と作成
- ③ 財政基盤の確立と業務の適正化

II 聖マリア保育園

1. 児童の保育

(1) 認可園児数 127名

0歳児12名 1歳児22名 2歳児24名 3歳児23名 4歳児23名 5歳児23名

(2) 本年度月別予定園児数 129名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0歳児	11	11	11	11	11	11	11	12	12	12	12	12	137
1歳児	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	264
2歳児	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	288
3歳児	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	300
4歳児	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	288
5歳児	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	288
合計	130	130	130	130	130	130	130	131	131	131	131	131	1565

(3) クラス編成

クラス名	年齢	園児数	保育士	
			資格有	資格無
つぼみ	0歳児	12	4※看護師含む	1
もも	1歳児	22	6	
ちゅうりっぷ	2歳児	24	4	
ぼら	3歳児	25	3	
すみれ	4歳児	24	3	
ゆり	5歳児	24	3	
フリー			3	9
合計		131	26	10

(4) 月別保育予定日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
25	23	26	24	24	24	27	24	24	23	24	26	294

(5) 保育計画

・保育理念・行動指針

「あなたがいて 私がいる」

「優しさをもたらったと感じた人は、その優しさを人に伝えることができます」

ひとを思いやる『心』、思いやる『言葉』、思いやる『行動』は周りのひとを笑顔にし、豊かな心の根っこを育てていきます。

セ せかさず ゆっくりあなたのリズム

イ 意欲を持って 挑戦しよう。

マ 周りに目を向け 探そう「良いところ」

リ リラックスして 深呼吸

ア 「ありがとう。」と笑顔で一日5回

・年間目標

- ① ひとりひとりの子どもの発達に寄り添い、豊かな感性や意欲を育み、成長するための素地をつくる。
- ② 子どもとの愛着関係を密にし、スキンシップや言葉かけを大切にし、子どもを尊重した保育の実践を行う。
- ③ 保育環境を整え、ヒヤリハット等事故防止に努める。
- ④ 保護者との信頼関係を築き、子どもの成長をともに寄り添い共有していく。

つばみ組(0歳児)

- ・安心できる人的・物的環境の下で、聞く・見る・触れるなど感覚の働きが「大」になる。
- ・くつろいだ環境のなかで保育士との親密な関わりを基に、安定した人間関係が芽生える。
- ・衛生的で安全な環境の中で、歩行を目指し、いろいろな運動をする。
- ・ことば以前の様々なサインをしっかりと受け止めることで、活発な自己表現をする。

もも組(1歳児)

- ・保育士が1人ひとりていねいに、優しく声をかけるなかで安心できる関係ができ、食事・排泄などの活動を通して自分でしようとする気持ちが芽生える。
- ・自分の欲求や気持ちを行動や言葉で表し、それを受け止めてもらうことで自己主張するが育つ。
- ・自由に活動するなかで身体を動かし、いろいろなものに触れてあそぶ楽しさを味わう。

ちゅうりっぷ組(2歳児)

- ・様々な欲求に応えてくれる保育士との安定した関わりの中で、身の回りのことを自分でしてみようとする。
- ・いろいろな経験を通して、ことばを習得し、ことばで表現しようとする。
- ・他児への関心が芽生え、保育士の仲立ちによって、友だちと関わってあそぶことを楽しむ。

ばら組(3歳児)

- ・食事・排泄・睡眠・衣服の着脱など、生活に必要な身の回りのことを自分でする。
- ・友だちや保育士と親しみ、ふれあいながら、安心して自分のやりたいあそびに取り組む。
- ・生活のなかで、言葉をつかって表現する意欲を持ち、伝え合う喜びを味わう。
- ・生活やあそびを通し、色々なことを経験するなかで、友だちとの関わりを広げる。

すみれ組(4歳児)

- ・集団生活のなかで保育士と友だちとの関わりを通して、生活に必要な習慣や態度を身につける。
- ・異年齢児の友だちとの関わりを通し、思いやる心をもつ。また生活のなかで保育園でみんなが使う「共つ同のもの」と「自分のもの」の違いを知り、大切に使う。
- ・全身を動かしてあそぶ。(飛ぶ・くぐる・投げる・四つんばいになる・登るなど)楽しさを味わう。

ゆり組 (5歳児)

◎幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿

・健康な心と体

園生活の中で満足感や充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせながら取り組み、見通しをもって自ら健康で安全な生活を作りだしていけるようにする。

・自立心

身近な環境に主体的に関わり、色々な活動や遊びを生み出す中で、自分の力でおこなうために思いめぐらすなどして、自分でしなければならないことを自覚して行い、諦めずにやり遂げる事で満足感や達成感を味わいながら自信をもって行動するようになる。

・共同性

友達との関わりを通して、互いの思いや考えなどを共有し、それらの実現に向けて工夫したり協力したりする充実感を味わいながらやり遂げるようになる。

・道徳性・規範意識の芽生え

していいことわるいことが分かり、相手の立場に立って行動するようになり、自分の気持ちを調整し、友だちと折り合いをつけながら、決まりを守る必要性が分かり、決まりを作ったり、守ったりするようになる。

・社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちを持ちつつ、いろいろな人と関わりながら、自分が役にたつ喜びを感じ、地域に一層の親しみを持つようになる。遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報を伝えあったり、活用したり、情報に基づき判断しようとしたりして、情報を取捨選択などして、役立てながら活動するようになるとともに公共の施設を大切に利用したりなどして、社会とのつながりの意識等が芽生えるようになる。

生活に必要な基本的な生活習慣が、自分の判断ですすめられるようになる。

・思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わり、物の性質や仕組み等を感じ取ったり気づいたりする中で、思いめぐらし予想したり、工夫したりなど多様な関わりを楽しむようになるとともに、友だちなどの様々な考えに触れる中で自ら判断しようとしたり考えなおしたりなどして、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら自分の考えをよりよいものにするようになる。

・自然との関わり、生命尊重

自然に触れて感動する体験を通し、自然の変化などを感じ取り、身近な事象への関心が高まりつつ、好奇心や探求心をもって思いめぐらし言葉などで表しながら自然への愛情や胃液の念を持つようになる。身近な動植物を命あるものとして心を動かし、親しみをもって接し、いたわり大切にする気持ちを持つようになる。

・数量、図形、文字等への関心、感覚

遊びや生活の中で数量に親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気づいたりして、必要感からこれらを活用することを通して、数量、図形、文字等への関心、感覚が一層高まるようになる。

・言葉による伝え合い

言葉を通して先生や友達と心を通わせ、絵本や物語等に親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付けるとともに、思い巡らしたことなどを言葉で表現することを通して、言葉による表現を楽しむようになる。

・豊かな感性と表現

みずみずしい感性を基に、生活の中で心動かす出来事に触れ、感じたことや思い巡らしたことを自分で表現したり、友だち同士で表現する過程を楽しんだりして、表現する喜びを味わい、意欲が高まるようになる。

わらべうた、伝承あそびの継承

0歳児から年長児まで伝承文化であるわらべうたを保育の中に取り入れる わらべうたは子どもから子どもへ、祖母から母へ、うたいつがれてきた文化である。民族が持つ文化・音楽がその中にはある。愛情をもってうたわれるうた、あやしことばは、乳幼児にとってとてもこころよいものである。わらべうたを通して、子どもはたくさんのかたちを学ぶ。遊びのルールや、順番を守ること、協力し合うこと、そして判断力や敏捷性が養われる。うたうように話し、話すようにうたう」わらべうたを、大人も子どもももうたっていく。

(6) 中長期計画（5か年計画（平成30年度～平成35年度）の取組み

①職員がモチベーション高く仕事ができるよう総合的な職員の人財対策（確保・育成・定着策）に取り組む事。

②地域の児童福祉で何をやるべきか、板橋区及び地元町会等と情報交換をより密にし、地域ニーズを把握し、新しいニーズへの対応を検討していく。

(7) 主な行事予定

4月	入園のつどい	11月	もちつき大会
6月	親子ふれあいのつどい	12月	クリスマスお祝い会
7月	年長児宿泊保育 夏祭り花火大会	1月	新年子ども会
8月	帰るの会、卒園生のつどい	2月	生活発表会
10月	運動会	3月	卒園を祝うつどい

※その他、子どもの日、七夕、すいかわり、お年寄りとの交流、節分、ひなまつり等四季、伝統行事を含め、園児、地域を対象とする行事などを行う。

※毎月 誕生会を行う。

5歳児ゆり組・・・水泳指導、書道教室 4歳児すみれ組・5歳児ゆり組・・・木琴指導

※保護者懇談会は前期と後期で2回実施、個別相談は希望により随時おこなう。

※保育参観も随時受け入れる。

(8) 保健計画、健康管理

「元気で明るい子」を目指し、一人ひとりの子どもにに応じて健康、安全に留意するとともに、全体の子どもの健康を保持し、安全を守れるようにする。また、保護者、地域の育児家庭に保健情報を伝える。

- ・病気の早期発見、感染予防に努める。
- ・身体的、精神的に快く過ごせるようにする。
- ・安全対策を図り、事故防止に努める。
- ・0歳児健診は園医による月1回、全園児健診は春と秋の年2回、耳鼻科検診は1歳児クラスから、歯科検診は4,5歳児クラスから年1回行う。
- ・新入園児健診は、入園時に行う。

年間保健行事

保健行事	対象年齢
内科健診	0歳児組（月1回）、1歳児組以上（年2回） 5歳児組園外保育前（年1回）新入園児入園前（1回）
耳鼻科検診	1歳児組以上（年1回）
歯科検診	4,5歳児組（年1回）

(9) 防災、防犯計画

- ・防災訓練（火災を含む）は、月1回以上、総合訓練を実施
- ・水害を想定した避難訓練 年2回
- ・保護者緊急連絡訓練（モバイル訓練）年3回 園児引き取り訓練 年1回
171災害伝言ダイヤル防災訓練 年1回以上
- ・防犯訓練 年5回

入園証を発行し、不審者に対する保護者間の意識を強化

- ・安全チェックの実施・普通救命認定証取得維持（全常勤職員）
- ・園外避難実施訓練
- ・防災器具、備蓄飲食料、備蓄品の総点検

リスクマネジメント

・ヒヤリハット報告に全園で取り組み、月1回各クラス代表による検討会を実施する（リーダー会議時）。アクシデントの要因や傾向の分析をし、全職員への周知を徹底すると共に、改善・予防策の考案に努めたい。子ども自身の身体能力や、注意力の発達に留意して、防止によりいっそう努める。また、リスクについて、職員間で検討する機会を増やす。

(10) 食育計画、栄養管理

- ・健康な生活を基本としての「食を営む力」の育成に向け、その基礎を培うために次の活動を行う。
- ・食育計画、カリキュラムに基づき、年齢、月齢に合わせた食育を行う。

- ・旬のものを取り入れ、良質で安全な食材を購入する。
- ・夏季を除き、その日の給食の見本を展示する。
- ・保護者との連携を密にする。
- ・除去食は医師の指示に基づき、保護者と話し合い、個別に対応する。
- ・保育園保護者と地域の育児家庭が求める調理情報を提供する。
- ・保健所への栄養管理報告書を年2回提出する。
- ・給与栄養目標量を年2回見直しする。

(11) 特別保育

- ・0歳児保育特別事業（0歳児取扱い人員：11名・・・3か月児以上）
- ・延長保育実施（0歳児の受け入れ・・・誕生日より開始）
- ・要支援児保育事業
- ・アレルギー児に対する代替食実施
- ・年末保育実施 12月29日(火)・30日(水)

2. 保育園保護者の支援

子どもの育ちを考え、保護者からの相談・要求・苦情等はできるだけ複数の職員で共有する。職員間でも共通の認識を持てるようにし、新たな支援も含め対応できるように体制を整えていく。

- ・保育、保健、調理栄養についての相談及び講座
- ・保育への参加、見学
- ・保育園入転園相談 ・法人便り年1回、園便り、保健便り、献立表は月1回クラス便り年4回発行し、保護者に園の情報を発信し、理解を深めて頂く。
- ・苦情要望解決システムをより明確にし、保護者からの要望、苦情を受け止める。
- ・運営、施設整備、保育、給食、延長保育等アンケートを実施する。

3. 地域子育て推進事業

保育園の職員の専門性（保育士・栄養士・調理士・保健師）を生かした子育て支援を実施する。

- ・保育パートナー事業（地域の子育て家庭支援）についての検討を行う。
- ・お年寄りとの交流、退所児童と園児との交流
- ・近隣小学生、他保育園児と当園児との交流
- ・小中高大学生までの育児体験とボランティアの受け入れ
- ・小学校低学年受け入れ・・・早朝学童、学童保育後の学童受け入れ。
- ・育児困難児および家庭への支援・・・相談及び公共機関とのコーディネート
- ・インターネットによる広報活動
- ・保育士養成校学生、看護師養成校学生、調理専門学校学生、学校教諭等の実習受け入れ実習指導を計画的に行う。
- ・地域の中で必要な支援は何かをリサーチし検討していく。

4. 職 員

(1) 職員数

園長 1名、保育部主任保育士 1名、保育部副主任保育士 1名、保健部主任 1名
給食部主任 1名、事務主任 1名、
保育士 33名（資格有 23名）、看護師 1名、調理員 6名、短時間調理員 1名、
事務職員 1名、庶務・用務員 2名

(2) 健康管理

- ・職員の健康診断は年1回以上、細菌検査は月1回以上行う。

(3) 研修計画

- ・保育指針を研究し、内容の理解と保育計画の改訂に通年で取り組む。
- ・キャリアアップ計画及び職員一人一人の個人票を作成、目標と研修等の計画を策定する。
- ・全職員に対する園内研修を充実させ、組織人としての人格及び能力の向上を図る。
- ・東京都福祉人材センター、全国社会福祉協議会、東京都社会福祉協議会、板橋区保育研修及び日本カトリック保育施設協会研修等を柱に、全員が自主的に各々の研修課題を見つけ、研修に参加し研修報告会を行う。
- ・救命技能認定資格を全員取るようにする。

※ 業務執行理事による園内研修(組織について他)は一日研修時の半日で行う。

～ 園内研修年間予定表～

番号	月	内 容	講 師	対 象
1	4月	リズム体操・聖歌	園長	新人・職員
2		就業規則	園長	新人
3		防災・防犯について	園長	新人
4		社会人としての基本	保育部主任	新人
5	5月	オンブ研修(さらし含む)	保育士	職員
6		乳児保育について・離乳食含	園長・保育部副 主任	職員
7		幼児保育について	園長・保育部副主任	職員
8	6月	アレルギー除去について	給食部主任	職員
9		怪我・感染症と保育園の対応	保健部主任	職員
10	7月	要支援児研修	未定	
11		盆踊り講習会	エイトの会	職員
12		園外研修発表	研修受講者3名	職員
13	8、9 月	保育課程見直し	副園長司会	各部門主任、副主任、 職員中堅・クラスリーダー

14	10月	カリキュラム見直し	保育部主任司会	職員
15	11月	保育環境について	保育部主任	職員
16	12月	地域のニーズを知る。	地域子育て推進	職員
17	1月	園外研修発表	研修受講者3名	職員
18	2月	園内研修	園長	職員
19	3月	園内研修	園長	職員

(4) 退職金、福利厚生

- ・福祉医療機構退職共済制度に加入する。
- ・東京都社会福祉従事者共済会に加入する。（常勤職員採用後継続5年を超える勤務者で希望する職員）
- ・日本保育協会保育共済に加入する。（常勤職員雇用後1年を超える勤務者で希望する職員）
- ・福利厚生センターに加入する。

5. 会 議

- ・運営会議、全体会議、主任会議、部門会議（献立会議、リーダー会議、支援室会議等）月1回以上行う。
- ・業務評価及び改善会議を年1回以上行う。

6. 施設整備及び管理

- ・建物の蛍光灯、非常灯のLED化
- ・非常すべり台の見直し

7. その他

- ・日本福祉サービス評価機構による利用者アンケートを行い、その結果を公表する。

Ⅲ 社会福祉充実計画（聖マリア塾子ども食事会）

1 計画

開催日・時間 : 毎週水曜日 17:00~20:00

場 所 : 聖マリア保育園3階

参 加 費 : 無料

2 内容

遊び スタッフを交え共にゲーム等をして遊ぶ。

学ぶ 学校の宿題や勉強をする。

食べる 温かい食事を通じてコミュニケーションを深める。

3 対象者

小学1年生から6年生まで

（学習塾・塾習い事に行っていないお子さん。）